

令和6年度 岩手県 文化遺産 防災訓練

13:30 開会行事

13:40 講演

「令和6年能登半島地震と文化遺産防災マップの活用」

蝦名 裕一 先生（東北大学災害科学国際研究所）

14:15 訓練1

グループワーク [教室]

15:00 訓練2

シミュレーション [教室・展示室・講堂]

16:00 閉会行事

※講堂では座席の指定はございません。

開会行事

1 開会の言葉

2 主催者挨拶

3 趣旨説明

4 事務連絡

趣旨説明

防災マップ活用最前線における
成果と課題を知る

講演

所属先毎に異なる文化遺産防災の
実情について情報交換する

訓練1

実際の1次レスキューの現場で
求められるノウハウを体感する

訓練2

一連の取り組みを通じて、岩手の文化遺産・文化施設を
「共に守る」という機運・体制づくりをはかる

訓練1 グループワーク(40分)

- (1)各自ワークシートへ記入(5分)
- (2)防災マップに関する情報交換(10分)
 - ・自己紹介を兼ね、事前準備内容について情報交換をお願いします。
 - ・時間に余裕があれば防災マップに関する改善点・要望を出し合ってみてください。
- (3)防災マップに関する話題の全体共有(5分+)
- (4)ワークシートに関する情報交換(10分)
- (5)各班協議内容の全体共有(5分+)

訓練2 シミュレーション(60分)

【内容・ねらい】

- 今年度は**地震**発生を想定した訓練を行います。
- 現場対応班と後方支援班に分かれ、それぞれ**レスキュー初動時**に求められるノウハウを体験を通して身に着けることを目的としています。
- 特に現場対応は設定した状況が実際に起こる可能性よりも、同様・類似の事態が別な施設で生じる可能性が高いものと思われるので、実施後はぜひ**それぞれのご所属等でも同様の状況を想定した備えを試みていただくと幸いです。**

訓練2 シミュレーション

【状況設定】

令和6年11月15日19:00頃、岩手県中部を震源とする直下型地震が発生。盛岡市内でも盛岡駅より北方及び東方の広範囲で震度6強の揺れに見舞われ、建造物に多大な被害が生じるとともに、飲食店や旧家屋が密集する大通地区、南大通地区では火災も発生した。

岩手県立博物館でもガラスの破損、漏水発生等被害が甚大な上、停電により温湿度のコントロールが失われたため、展示資料を含め、資料を搬出する必要が認められた。

訓練2 シミュレーション

【現地班】

○班毎に当館職員の誘導で展示室へ行き、優先的に避難させるべき資料について、避難の方法、必要な資材・人員等をリスト化します。

○30分経過したら教室に集まり、要救出資料を集計します。

【後方班】

○様式を用いて提供可能なリソースをリスト化し、集約します。

○講堂へ移動し、防災マップを用いて、優先的に調査が必要な盛岡市内の文化遺産について協議します。

→30分強後に講堂で再び合流

訓練2 シミュレーション

【後方班】

- ①様式を用いて、各自のご所属で提供可能と思われるリソースをリスト化してみてください。(5分)
 - ②皆さんが作成したリストを合算します。(5分+)
- ※判断する上で必要な条件や、特に所属内部で検討が必要な事項があれば共有をお願いします。
- ③講堂へ移動。防災マップを用いて、特に優先的に状況確認・支援が必要と思われる対象をピックアップしていきます。(15分+)
- ※現地調査やレスキューを行う上で障害となりそうな要素も随時挙げていきましょう。

訓練2 シミュレーション

【博連協の有事対応マニュアルの内容確認】

○基本的に次のような流れが軸となります。

支部長→会長＝県博館長→県教育委員会

○今回は県博被災のため次のように伝達します。

被災状況：県博→県教育委員会

支援情報：盛岡支部→県博→県教育委員会

※この規定は文化施設の被災を想定したものです
が、文化施設外の文化遺産救援のスキームが確立
されるまでの間、援用されるものと思われます。

閉会行事

1 コメント

2 事務連絡

3 閉会の言葉